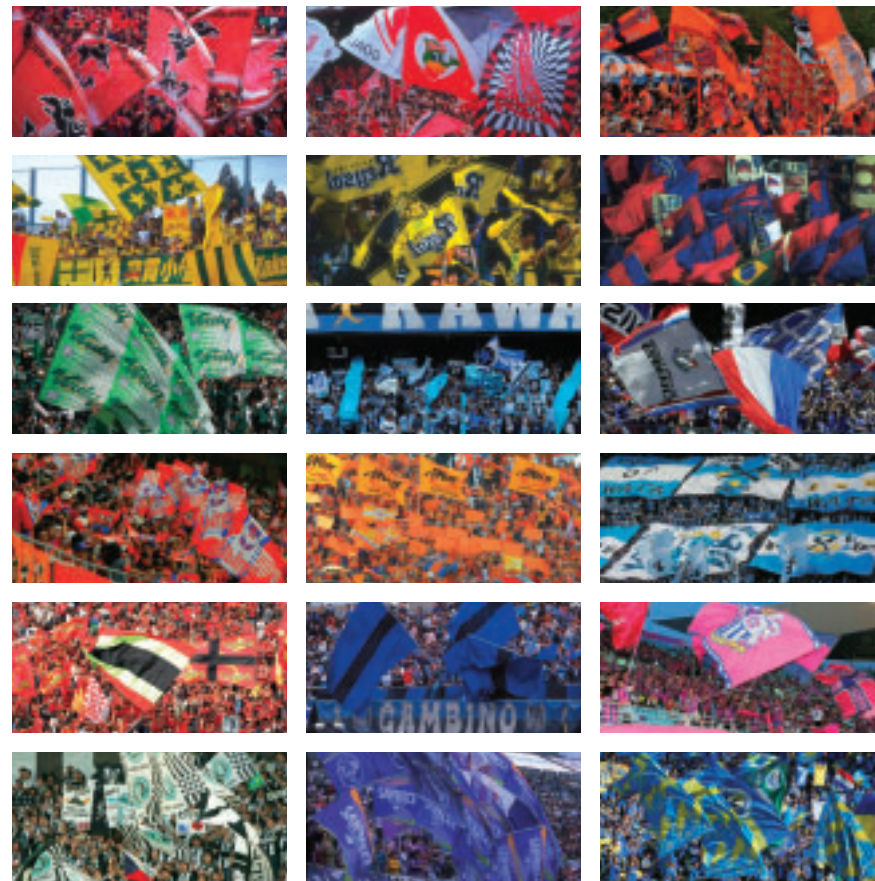


BRAVO!



©JLEAGUE PHOTO INC.



HEIWAは、Ｊリーグのオフィシャルスポンサーになりました。



第36期 事業報告書

平成16年1月1日～平成16年12月31日



永遠の原点

最新のエレクトロニクス技術を駆使して

今やレジャー産業の雄に成長したパチンコ産業。

平和は常にその先頭を走ってきました。

戦後の暗闇の中で、人間にとって最も尊く大切なことは

「平和」であると痛感した瞬間から、私たちの道は始まりました。

パチンコ産業は「平和」の象徴でありたい、その熱い想いが社名になりました。

時代が変わり、時が移っても、その創業の精神は脈々と受け継がれ

一人ひとりの心に息づいています。

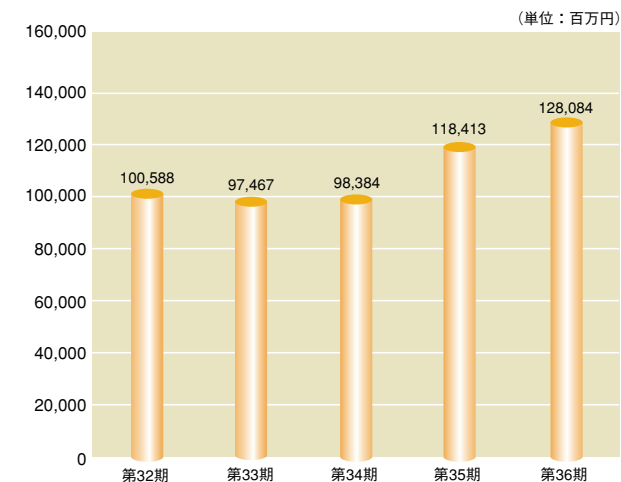
平和こそ、私たちの原点。

目次

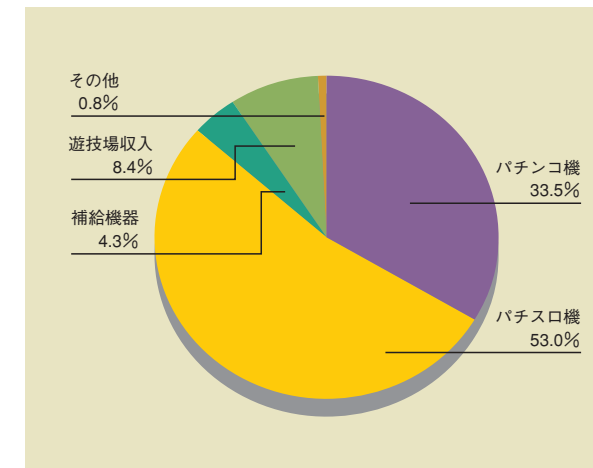
財務ハイライト(連結)	2
トップインタビュー	3
セグメント別の概況と次期以降の見通し ..	7
HEIWAトピックス	10
連結・単独財務諸表	11
会社概要・関連会社のご紹介	13
株式の状況・株主メモ	14

財務ハイライト (連結)

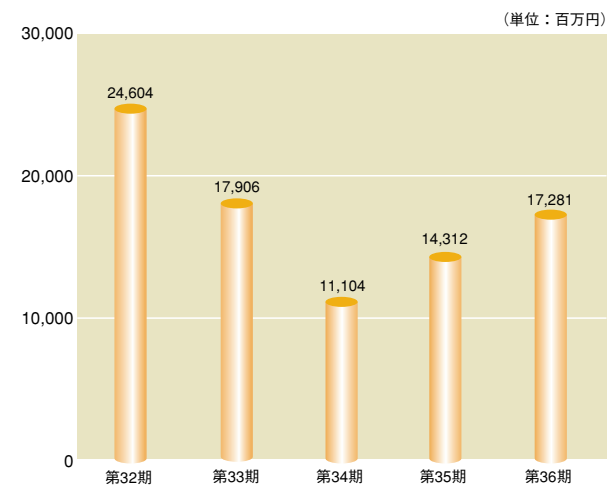
売上高



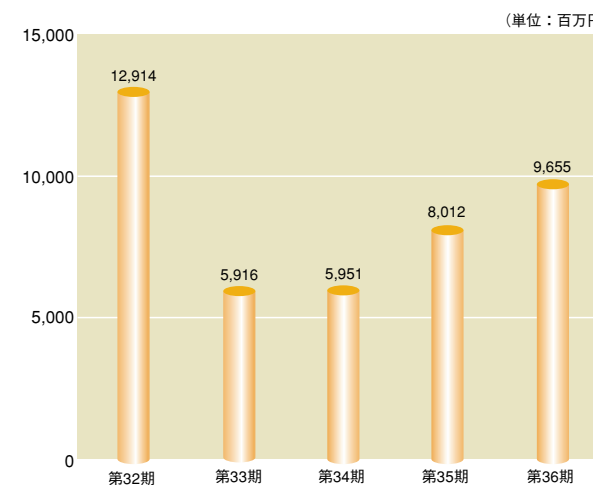
セグメント別売上高構成比



経常利益



当期純利益



「顧客ニーズにあった製品開発を促進し、高収益体質への変革を実現します」



代表取締役社長 中島 潤

株主の皆様には日ごろより格別のご高配を賜り、ありがとうございました。お礼申し上げます。

当社グループの第36期（2004年1～12月）の業績・今後の見通し・株主の皆様からのご質問などについて、この機会にご説明させていただきたいと思っております。

パチンコ業界の動向

――パチンコ・パチスロ市場の規模は？

ご存知のとおり、パチンコ・パチスロ市場は日本最大のレ

ジャー産業です。パチンコ業界ではユーザーがパチンコホールでパチンコ玉やパチスロのメダルを借りる際に支払う「貸玉料」を市場規模の指標としています。グラフ（図1）をご覧ください。ここ10年ほどは28～30兆円で安定しています。その一方で、パチンコ参加人口が10年で3割減少しています。これはユーザー1人当たりの負担が高まっていることを意味しており、業界全体の発展を考えた場合、必ずしも望ましい状況とは言えません。

――パチンコ機・パチスロ機の市場規模は？

当社グループの主力事業でありますパチンコ機・パチスロ機の市場規模は、ここ数年拡大基調にあり、2003年には1兆2,000億円の規模となりました（図2）。まだ統計は発表されていませんが、2004年は一昨年を超える規模になったものと思われる。

パチンコ機市場は、ここ数年パチンコホールが新台の入替を頻繁に行うことで集客をはかってきたこともあり、順調な伸びを見せています。2004年7月に遊技機規則の改正があり、パチンコ機につきましては従来に比べゲーム性の高い機種開発が可能となったため、昨年末の改正後の規則に対応した新基準機の登場以来、入替需要がさらに伸びを見せています。パチンコは主に30歳代以上の方が主なユーザーですね。

パチスロ機市場は、ここ5年で大幅に拡大し、市場規模が2倍になりました。これはパチスロのゲーム性の拡大に伴い、20～30歳代の若者がユーザーとして定着したためです。当社も1999年からパチスロ機市場に新規参入して以来、順調にシェアを伸ばし、昨年は業界第3位の地位を確保しました。しかし昨年の遊技機規則の改正により、行き過ぎの感があつた

パチスロ機の射幸性が見直されたため、拡大基調にあった市場に変化があらわれるものと考えます。

――今後の市場動向はどうなりますか？

2004年7月にパチンコ機・パチスロ機のあり方を定めている遊技機規則が改正されました。ここまでの大きな変化は1992年のCR機登場以来となります。

パチンコ機はゲーム性が大きく広がります。今までのパチンコ機は、モチーフや起用されるキャラクターは違っても、ゲーム性はほとんど同じでした。規則改正により、様々なゲーム性をもったパチンコ機の開発が可能になります。当社の新規則1号機「アントニオ猪木という名のパチンコ機」は、今までにないゲーム性を適度な射幸性のもとで実現しています。規則改正により広がったゲーム性で、射幸性を高めることなく、新しいパチンコユーザーを市場に呼び込むことができると、私は考えています。

パチスロ機は高い射幸性を備え、行き過ぎの感がありましたが、それが正常化されるものと考えています。パチスロユーザーの皆さんが遊びやすい台が主流となり、パチスロ参加人口がさらに増えることを期待しています。

2004年の業績について

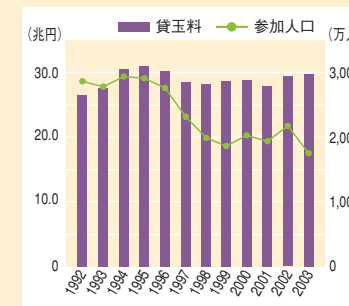
――2004年の業績について教えてください。

2004年の業績は連結で売上高1,280億円、経常利益172億円と2003年を超える業績となりました。これは主にパチスロ機事業が好調であった結果です。

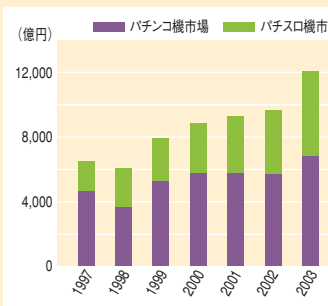
パチンコ機事業では予定していた新規則機「アントニオ猪木という名のパチンコ機」の投入が2005年1月にずれ込んだこともあり、販売台数は2003年の26万台を下回る23万台、売上高は428億円にとどまりました。

パチスロ機事業では、「アントニオ猪木自身がパチスロ機」

■図1 貸玉料とパチンコ参加人口



■図2 パチンコ機・パチスロ機市場



「主役は銭形」がそれぞれ11万台を超えるヒットとなり、販売台数は26万台、売上高は679億円となりました。

――「アントニオ猪木という名のパチンコ機」の投入が遅れた理由を教えてください。

パチンコ機・パチスロ機を発売するにあたっては、機械が規則に適合しているか・不正改造をきちんと防止できるかを（財）保安電子通信技術協会（保通協）が試験し、それをパスして初めて発売の許可をいただけます。

当社では、新規則機「アントニオ猪木という名のパチンコ機」におきまして、新しい機能を盛り込み、規則改正によるゲーム性の広がりを最大限に生かそうとしました。しかしそれが逆に許可の取得に時間がかかる原因となり、結果的に発売が遅れてしまいました。

今後はこういったことがないよう、開発体制のさらなる強化も含め対策を進めています。

（株）オリンピアとの関係強化

――（株）オリンピアとの関係を強化されたそうですが？

そのとおりです。当社と（株）オリンピアは、1998年から主にパチスロ機事業の開発・販売において業務提携関係にあります。ここ数年は当社が企画し、（株）オリンピアが開発・生産した「HEIWA」ブランドのパチスロ機が高く評価され、業界



配当は安定配当を基本方針としており、3ヶ月の変則決算となる2005年3月期も、3ヶ月分の配当として1株当たり6.25円をお支払いいたします。また、増配については業績が大きく向上した場合には、積極的に検討したいと考えています。

——カジノへの対応方針を教えてください。

当社グループとしては、カジノの調査・研究、カジノ合法化に伴うパチンコ業界への影響の調査・研究など様々な面から検討は行っています。また、カジノ合法化の際には当社でパチスロを開発していることもあり、カジノ向けスロットマシンの開発も可能であると考えています。

——パチンコとパチスロどちらを重視していますか？

当社グループとしてはパチンコ・パチスロどちらも重視しており、どちらかをより重視しているということはありません。

最後に

今年は平和グループにとって大きな変革の年となります。今後とも全国のパチンコホールとパチンコユーザーの皆様にご協力いただける製品を提供し、高収益体制を実現していくことにより、株主の皆様のご負担にお応えしていく所存です。引き続き変わらぬご支援をお願いいたします。

また、当社が企画し、(株)オリンピアが開発・生産した「HEIWA」ブランドのパチスロ機は、以前からそのゲーム性を高く評価されており、規則改正後についても当社は企画力という強みを十分に発揮していきたいと考えています。

また、当社はパチンコ業界として初のJリーグオフィシャルスポンサーやワールドカップバレー協賛、テレビでの積極的な企業CMなど、パチンコをより身近な遊びとして理解していただくための取り組みを続けていきたいと考えています。

——組織再編について教えてください。

「開発生産部門」「販売部門」など各部門の責任の明確化など、グループが抱える経営課題の迅速な対応を目的に、持株会社を中心としたグループ経営への移行と主要部門の別会社化への検討を始めています。その一環として今年の1月に組織再編を行いました。

これに関連し、パチンコ機・パチスロ機市場の需要時期を考え、先ほどご説明いたしましたように、決算期を今までの12月から3月に変更しました。配当をお支払いする時期が変更になりますが、株主の皆様にはご理解いただければ幸いです。(詳細は10頁参照)

株主の皆様からのご質問

——異業種への参入予定は？

当社グループはパチンコ・パチスロを主力事業としており、まったくの異業種への参入は現在のところ考えておりません。しかし、パチンコ・パチスロ関連分野への参入は常に検討しています。

——内部留保についての考え方は？

内部留保については、関連分野への投資を行っていきます。先ほども触れました(株)オリンピアの株式取得もその一環です。ほかにも昨年5月にセントレックス市場に上場しました当社子会社コムシードへの投資などもあげられます。

——配当政策について教えてください。

拡大をはかっていきます。また、経営課題への迅速な対応を目的とし、組織の再編成も検討しております。

——市場シェア拡大とコスト削減に向けた方策は？

一番重要なポイントは開発体制の強化です。具体的には、従来から推進していた企画と開発の役割の明確化をさらにすすめます。これにより、コンテンツの充実、開発期間の短縮化およびコスト削減を実現していきます。

また、当社の卓越したパチスロ機の企画ノウハウをパチンコ機事業においても積極的に活用していきます。

——パチスロ機の自社開発体制について教えてください。

現在のところ、当社のパチスロ機事業は(株)オリンピアとの共同事業ですが、それとは別に自社開発・生産体制を構築してきました。今年3月には初の自社開発機「雷蔵伝」を発表し、4月には発売を開始します。今後はオリンピア開発機と平行して自社開発機を発売することにより、パチスロ機事業での利益率の改善をはかっていきます。

——パチンコ機・パチスロ機での映像表現の重要性が高まっていると聞きます。

当社は他社に先駆けて液晶搭載パチンコ機「麻雀物語」を発売するなど、昔から映像表現には力を入れてきました。今後、映像表現がさらに重要となってくるため、CG映像の企画・制作を目的とする子会社「平和アルファ」を昨年12月に設立しました。当社の開発チームの開発ノウハウと平和アルファの技術を融合させることで、より市場に受け入れられるパチンコ機・パチスロ機を開発します。

——今後の市場を考える上で、何が大切とお考えですか？

ヘビーユーザーが中心となっている今の市場においては、新しいユーザーを呼び込むことが急務であると考えています。

具体的には射幸性に依存せず、ライトユーザーでも遊びやすいパチンコ機・パチスロ機の開発が重要です。「アントニオ猪木」という名のパチンコ機も、いたずらに高い射幸性に依存することなく「遊べる」機械となっています。今後もこの方針を貫いていきたいと考えています。

第3位という地位を確保しました。

この業務提携が当社と(株)オリンピアの業績に与える影響は年々重要性を増しています。

当社はすでに(株)オリンピアの株式の11%を保有していましたが、この関係をより強固なものとするため昨年12月にさらに11%を140億円で追加取得し、現在は22%の株式を保有しています。業務提携を一層強固なものとすることで、さらなる効果がでてくるものと考えています。

今後の目標・課題

——次期以降の業績予想を教えてください。

パチンコ機事業では、新規機の入替需要が引き続き好調であり、また当社のパチンコ機の評価が高くなってきていることから、前期を超える業績を見込んでいます。一方、パチスロ機事業では規則改正による一時的な需要の減少があることから、前期を下回る売上を予想していますが、自社開発機も発売しますので、利益率は改善される予定です。

この度、当社グループは決算期を12月から3月に変更しましたので、具体的な数字は、2005年1～3月、2005年4月～2006年3月と分けてご説明します。

3ヶ月決算となる2005年3月期は、売上高430億円、経常利益65億円を見込んでいます。販売台数はパチンコ機が11万台、パチスロ機が4万台です。

2006年3月期は、売上高1,238億円、経常利益199億円を見込んでいます。販売台数はパチンコ機が40万台、パチスロ機が7万台です。

——中期的な目標を教えてください。

当社グループの中期的な課題は高収益体質の実現です。現在、ROE(株主資本利益率)は5.0%、売上高経常利益率は13.5%ですが、3年間で、ROEを8%以上、売上高経常利益率を25%以上まで引き上げます。そのために、市場シェアの拡大とコスト削減が課題となります。同時に、パチンコ市場の

セグメント別の概況と来期以降の見通し

パチンコ機事業

■概況

2004年のパチンコ機市場は、遊技機規則の改正による入替需要の拡大の影響もあり、400万台を超えた模様です。これは年度後半に新規則対応機種が登場し、入替需要が大幅に伸びた結果です。

一方、パチンコ業界の売上高を示す貸玉料は2003年で29兆6,000億円とここ数年は30兆円弱と安定している一方、パチンコ参加人口が統計を開始した1992年以来最低

の1,740万人となっており、このことからファン構造がヘビーユーザー寄りになってきていることが推察されます。

そのような状況で、当社は昭和40年代の人気時代劇をモチーフとした「木枯し紋次郎」(1月発売)、「祭物語」(7月発売)、かわいいキャラクターと70～80年代のなつかしのアイドルのメロディが調和した「プリティバンド」(10月発売)など計10シリーズを発売しました。

その結果、年間の販売台数は234,000台(前期比26,000台減)となりました。これは「アントニオ猪木という名のパチンコ機」の投入が2005年1月にずれ込んだ影響によるものです。

■次期以降の見通し

パチンコ機市場は、規則改正によりゲーム性が広がり、市場全体の活性化が期待できます。また、当社ではゲーム性を重視した機種開発を推し進め、新しいユーザーを呼び込んでいきたいと考えています。

今年1月に発売した新規則対応機種「アントニオ猪木という名のパチンコ機」は10万台を超えるヒット機種となる見込みであり、さらに3月に発表し4月発売の「ドロンジョにおまかせ」も大好評いただくなど、好調なスタートをきっています。2005年1～3月期では、販売台数115,000台、売上高265億円、2005年4月～2006年3月では販売台数400,000台、売上高802億円を見込んでいます。

(百万円未満切捨表示)

	当 期	前 期	増減額	増減率
売上高	42,847	46,045	▲3,198	▲6.9%
営業利益	11,747	12,233	▲ 486	▲3.9%

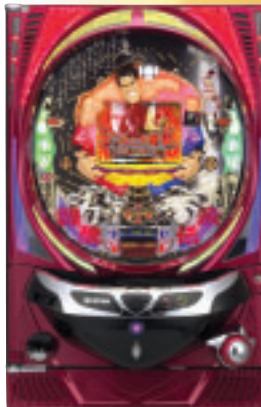
パチンコ機 新機種紹介



当社新規則1号機。新規則を生かし射幸性に依存しないゲーム性を実現しました。

(2005年1月発売)

▼アントニオ猪木という名のパチンコ機



▲祭物語

お祭気分満載の機種です。西の祭に東の祭！神輿に花火！リーチや予告といった演出を自由に選択できます。好評の「タッチdeスキップ」も引き続き搭載しました。

(2004年7月発売)

© INOKI INT. INC

パチスロ機事業

■概況

2004年のパチスロ機市場は、ここ数年のパチスロ人気もあり、160万台を超える形で推移した模様です。当社のパチスロ機はそうした状況の中でコンスタントにヒットを重ねており、市場で高い評価をいただいています。

当社のパチスロ機事業は、当社が企画し(株)オリンピアが開発・生産したパチスロ機を、当社が販売しています。

そうした状況で、当社は人気プロレスラーのアントニオ

オ猪木氏をモチーフとした「アントニオ猪木自身がパチスロ機」(1月発売)、「主役は銭形」(5月発売)、「パチスロだよ黄門ちゃま」(12月発売)の3機種を発売しました。

その結果、年間の販売台数は261,000台(前期比65,000台増)となりました。これは「アントニオ猪木自身がパチスロ機」「主役は銭形」がそれぞれ11万台を超える当社最大の大ヒットとなり、「パチスロだよ黄門ちゃま」も大好評いただいた結果です。

■次期以降の見通し

昨年12月に発売した「パチスロだよ黄門ちゃま」は今年も引き続き大好評いただいています。また、3月に発表し4月発売の「雷蔵伝」は、初の自社開発・生産機種となり、利益率の改善も見込まれます。今後は自社開発機とオリンピア開発機種の双方を発売していきます。

2005年1～3月期では販売台数42,000台、売上高121億円、2005年4月～2006年3月では販売台数70,000台、売上高221億円を見込んでいます。これは、規則改正に伴う射幸性の正常化による一時的な入替需要の減少を見込んだ結果です。

(百万円未満切捨表示)

	当 期	前 期	増減額	増減率
売上高	67,938	54,005	13,932	25.7%
営業利益	11,618	6,285	5,333	84.8%

パチスロ機 新機種紹介



平和の大ヒットパチンコ機「黄門ちゃま」を彷彿させるスペックをパチスロで実現。若者のパチスロファンだけでなく、往年の「黄門ちゃま」のファンも引きつけ、パチスロのファン層拡大にも貢献しています。(2004年12月発売)

▼パチスロだよ黄門ちゃま



© C.A.L

▲主役は銭形

ルパン三世シリーズのパチスロ機第3弾。ルパンを逮捕すればボーナス確定という分かりやすいゲーム性と多彩な演出でファンを魅了し、11万台を超える大ヒットとなりました。(2004年5月発売)

© モンキー・パンチ/TMS・NTV

セグメント別の概況と次期以降の見通し

補給機器事業

当事業ではパチンコホールに必要なホールコンピューター、パチンコ玉・メダルの補給機器などを取り扱っています。補給機器市場はここ数年縮小する傾向にありましたが、2004年は新紙幣発行に伴い、対応機器への入替・改修需要が増加しました。

こうした中、2004年5月には補給機器販売の機能強化を目的に補給機器事業部門を(株)平和サテライトとして分社化しました。年間では売上高55億円(前期比19.5%減)となりました。

(百万円未満切捨表示)

	当 期	前 期	増減額	増減率
売上高	5,536	6,882	▲1,346	▲19.5%
営業利益	124	▲695	820	—

遊技場事業

当事業では、子会社の(株)新効がパチンコ機・パチスロ機のアンテナショップとしてパチンコホールを経営しています。

(株)新効では店舗間競争の激化に対応するため、保有する3店舗のうち1店舗を改装しました。改装期間中の休業の影響により、売上高は107億円(前期比5.0%減)となりました。

(百万円未満切捨表示)

	当 期	前 期	増減額	増減率
売上高	10,781	11,354	▲573	▲5.0%
営業利益	▲191	198	▲389	—

そ の 他

当事業は、情報サービス提供、再保険、投資事業など主にグループ会社によるものです。コムシード(株)が連結対象となったため、売上高・営業利益が伸びています。

(百万円未満切捨表示)

	当 期	前 期	増減額	増減率
売上高	980	124	856	688.5%
営業利益	497	235	262	111.7%

■次期以降の見通し(連結)

(百万円未満切捨表示)

	2005年4月～2006年3月	2005年1～3月	当 期
売 上 高	123,800	43,020	128,084
営 業 利 益	19,330	6,060	19,019
経 常 利 益	19,940	6,530	17,281
当 期 純 利 益	11,360	3,650	9,655
1 株 当 たり 当 期 純 利 益	99.23 円	31.88 円	82.93 円

HEIWAトピックス

Jリーグの
オフィシャルスポンサーに決定

当社は以前から経営の基本理念の1つである「社会貢献」として、スポーツ・文化活動への協力・協賛など、地域への支援活動に取り組んでいます。その一環として、平和は2005年からJリーグオフィシャルスポンサーとなりました。

これは、Jリーグの基本理念である「日本における豊かなスポーツ文化の振興」のもとで行われてきたJリーグとクラブチームの各地域での地道な活動が当社の理念に沿うものであり、また将来のファン層へのアピールを狙ったものです。

今後、当社ではJリーグオフィシャルスポンサーとして、Jリーグとともに人々に夢を与え、地域に貢献できるパートナーとして様々な活動に参加できればと考えています。



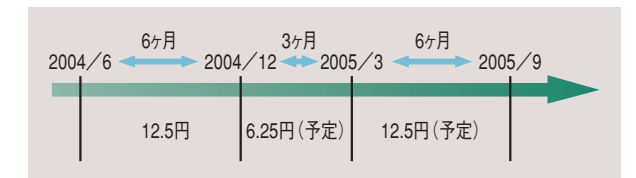
©J.LEAGUE PHOTOS INC.

決算期の変更

当社は、2005年3月30日開催の株主総会において、決算期を従来の12月から3月に変更することを決定しました。これにより、当社の第37期は2005年1月1日から2005年3月31日までの3ヶ月間となります。

その結果、株主の皆様にお支払いする配当金が以下のような形になりますのでご注意ください。

なお、2005年3月期の利益配当金は2005年1月1日から3月31日までの3ヶ月間の配当となるため、通常の6ヶ月分の配当の半分の6.25円(予定)となります。



来期以降は毎年、6月下旬と12月中旬に配当をお支払いする予定です。

また、6月下旬には2005年3月期(第37期)の定時株主総会を開催いたしますので、ぜひ、お越しください。

名 称	お支払い開始時期	1株当たり配当
第36期 利益配当金	2005年 3月31日	12.5円
第37期 利益配当金	2005年 6月下旬(予定)	6.25円(予定)
第38期 中間配当金	2005年12月中旬(予定)	12.5円(予定)

※配当金は当社の業績によりその有無や金額等を変更する場合があります。

連結・単独財務諸表

連結財務諸表

■連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成16年12月31日現在)	前期 (平成15年12月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		113,787	132,971
固定資産		118,708	96,198
有形固定資産		24,823	23,469
無形固定資産		2,333	2,300
投資その他の資産		91,551	70,428
資産合計		232,495	229,170
(負債の部)			
流動負債		34,178	38,072
固定負債		1,312	1,339
負債合計		35,490	39,412
(少数株主持分)			
少数株主持分		507	—
(資本の部)			
資本金		16,755	16,755
資本剰余金		16,675	16,675
利益剰余金		167,157	160,663
その他有価証券評価差額金		△ 1,258	△ 1,592
為替換算調整勘定		△ 621	△ 598
自己株式		△ 2,209	△ 2,145
資本合計		196,497	189,757
負債、少数株主持分及び資本合計		232,495	229,170

■連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで	前期 平成15年1月1日から 平成15年12月31日まで
売上高		128,084	118,413
売上総利益		39,065	34,465
営業利益		19,019	14,109
経常利益		17,281	14,312
税金等調整前当期純利益		16,649	13,424
当期純利益		9,655	8,012

■連結剰余金計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで	前期 平成15年1月1日から 平成15年12月31日まで
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高		16,675	16,675
資本剰余金期末残高		16,675	16,675
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高		160,663	155,719
利益剰余金増加高		9,655	8,012
利益剰余金減少高		3,161	3,068
利益剰余金期末残高		167,157	160,663

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで	前期 平成15年1月1日から 平成15年12月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		17,670	10,013
投資活動によるキャッシュ・フロー		△14,219	3,774
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,400	△ 4,511
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 176	△ 762
現金及び現金同等物の増減額		874	8,514
現金及び現金同等物の期首残高		48,818	40,303
新規連結による現金同等物の増加高		112	—
現金及び現金同等物の期末残高		49,805	48,818

単独財務諸表

■貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	当期 (平成16年12月31日現在)	前期 (平成15年12月31日現在)
(資産の部)			
流動資産		96,585	119,186
現金及び預金		26,274	34,493
受取手形		12,825	21,814
売掛金		6,437	11,605
有価証券		25,609	27,024
商品		3,367	5,306
製品		4,304	1,422
原材料		7,227	7,980
繰延税金資産		3,572	2,431
特定金外信託		3,218	5,663
その他の		3,894	1,655
貸倒引当金		△ 146	△ 212
固定資産		121,781	97,949
有形固定資産		21,442	20,685
無形固定資産		59	156
投資その他の資産		100,279	77,106
資産合計		218,367	217,135
(負債の部)			
流動負債		30,652	36,022
支払手形		8,066	11,270
買掛金		13,369	17,411
未払金		2,712	2,254
未払法人税等		5,486	4,249
その他の		1,017	836
固定負債		1,043	1,190
負債合計		31,695	37,212
(資本の部)			
資本金		16,755	16,755
資本剰余金		16,675	16,675
利益剰余金		156,651	150,235
その他有価証券評価差額金		△ 1,265	△ 1,597
自己株式		△ 2,145	△ 2,145
資本合計		186,671	179,923
負債資本合計		218,367	217,135

■損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 平成16年1月1日から 平成16年12月31日まで	前期 平成15年1月1日から 平成15年12月31日まで
売上高		111,920	107,040
売上原価		75,520	74,362
売上総利益		36,399	32,677
販売費及び一般管理費		18,173	19,483
営業利益		18,226	13,193
営業外収益		4,226	2,830
営業外費用		5,777	2,610
経常利益		16,674	13,413
特別利益		468	50
特別損失		1,016	931
税引前当期純利益		16,126	12,532
法人税、住民税及び事業税		7,938	4,841
法人税等調整額		△ 1,227	247
当期純利益		9,415	7,443
前期繰越利益		137,686	133,243
中間配当額		1,431	1,431
当期未処分利益		145,671	139,255

■利益処分計算書

(単位：百万円)

科目	期別	当期 株主総会承認日 平成17年3月30日	前期 株主総会承認日 平成16年3月26日
当期未処分利益		145,671	139,255
利益処分額		1,562	1,568
配当金		1,431	1,431
役員賞与金		131	137
次期繰越利益		144,109	137,686

会社概要・関連会社のご紹介

会社概要

商号 株式会社 平和
(英訳名: Heiwa Corporation)

本社 〒376-8588
群馬県桐生市広沢町二丁目3014番地の8

URL <http://www.heiwanet.co.jp/>

創業 昭和24年

設立 昭和35年

資本金 167億5,500万円

従業員数 951名(連結)

役員

代表取締役社長	中島潤
代表取締役副社長	石橋保彦
専務取締役	堀江一義
常務取締役	町田徹
取締役	神山利夫
取締役	平野征宏
取締役	杉戸春雄
取締役	坂本雅夫
取締役	中村誠一
取締役	古川恵人
取締役	梅田正人
常勤監査役	井元敏勝
監査役	新井弘二
監査役	岸本政昭
監査役	頃安健司

事業内容 パチンコ機の開発・製造・販売
パチスロ機の開発・販売

事業所 本社・工場(桐生)、六本木オフィス、北海道、東北、北関東、東京、名古屋、大阪、広島、九州 他23営業所

取引銀行 UFJ銀行、みずほ銀行、群馬銀行

関連会社のご紹介

(株)オリンピア
所在地 / 〒110-0015 東京都台東区東上野2-11-7
TEL / 03-3835-2181

(株)アムテックス
所在地 / 〒379-2206 群馬県伊勢崎市香林町2-1818
TEL / 0270-62-7731

(株)新効
所在地 / 〒370-0073 群馬県高崎市緑町1-1-19
TEL / 027-370-8880

(株)平和サテライト
所在地 / 〒376-0002 群馬県桐生市境野町 7-86
TEL / 0277-22-1155

(株)平和サービス
所在地 / 〒376-0002 群馬県桐生市境野町7-86
TEL / 0277-43-7501

(株)平和アルファ
所在地 / 〒110-0015 東京都台東区東上野2-22-9
TEL / 03-3839-0444

コムシード(株)
所在地 / 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1
TEL / 03-5217-5811

Heiwa Insurance Inc.
所在地 / アメリカ ハワイ州ホノルル市

Meteor LLC
所在地 / アメリカ ハワイ州ホノルル市

Heiwa Investments AG
所在地 / スイス連邦 グランビュンデン州クール市

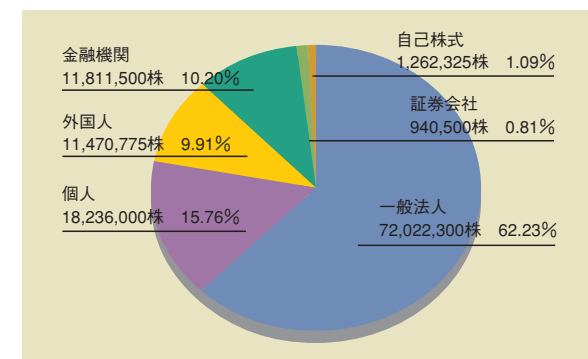
株式の状況・株主メモ

株式の状況

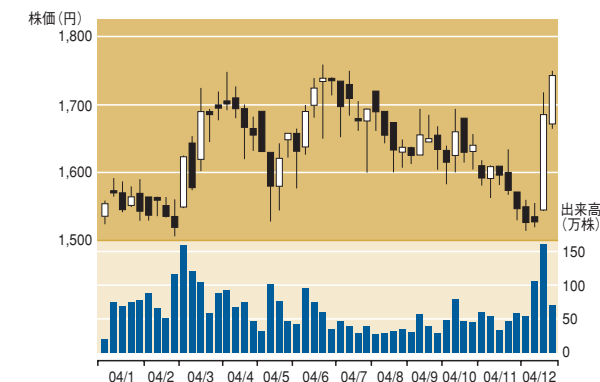
平成16年12月31日現在

会社が発行する株式の総数 228,903,400株
発行済株式の総数 115,743,400株
株主数 14,256名

株式の所有者別状況



株価チャート



株主メモ

決算期 3月31日

利益配当金受領株主確定日 3月31日

中間配当金受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

名義書換代理人 UFJ信託銀行株式会社

※決算期につきましては、2005年3月30日開催の第36回定時株主総会において毎年12月31日から毎年3月31日に変更しております。

同事務取扱所 UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
0120-232-711

同取次所 UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 本店および全国各支店

上場証券取引所 東京証券取引所市場第1部

公告掲載紙 東京都において発行する日本経済新聞

※決算公告につきましては、第35期より日本経済新聞による決算公告に代えて下記インターネットアドレスに掲載しております。
<http://www.aspir.co.jp/kessan/6412/6412.html>

■株式に関する手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、株式名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記名義書換代理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けしておりますので、ご利用ください。
フリーダイヤル 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪支店証券代行部)

URL <http://www.ufjtrustbank.co.jp/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

※2004年3月27日より、当社株式の名義書換代理人を「中央三井信託銀行株式会社」から「UFJ信託銀行株式会社」に変更しております。

株式会社 平和

〒376-8588 群馬県桐生市広沢町2-3014-8
本誌の内容に関することは総合管理部 広報課にお問い合わせください。
TEL 03-5770-8888 URL <http://www.heiwanet.co.jp/>